令和５年度
光輪はさみこども園における自己評価

（1）　教育・保育理念を意識した保育ができたか

当園は「共に仏の子どもとして、共に生き、共に育ちあう」を理念として教育・保育に取り組んでいます。反省会や保護者の方のご意見、子どもの姿を通して、理念に立ち返り続けるということを大切にしていきたいと思います。

（2）今年度保育テーマに沿った保育ができたか

今年度は乳児部テーマ「愛でる～いのちに感動～」、幼児部テーマ「やってみよう～だれかのために～」とそれぞれに年間保育テーマを立てました。乳児は自分のまわりにあるものがとても豊かで素晴らしく、その中で生きているということを感じられるように保育計画を立て、歌、制作、地域の方との触れ合いや野菜作りなど意識して実施してきました。また幼児部では自分を育んでくれる誰かのために何かをしていこうという意識を持つような声かけをしてきました。ピアニカ、制作、お遊戯、等々。誰かの喜ぶ顔をみたい、誰かに聞いてほしい。そのような心を育んでいくことによって自分がしていることが、まわりのためになっているということを感じていたようでした。

（3）子どもの発達に応じた保育計画だったか

それぞれの年齢の年間保育計画を基本として月案を立て、定期的な月案会を中心に　その年の発達に応じた、保育計画を立てていきました。中でも特に発達状況に気にかけなくてはならない子どもたちに関して、関係機関の見学や専門の先生との連携もとってきました。知識だけではなく、目の前の子どもたちがいかに幸せに生きることができるのか。このことを念頭におきながら更に子どものための保育に取り組んでいきたいと思います。

（4）子ども達のやる気を引き出す保育の工夫ができたか

保育教諭は常に子どもたちのやる気を引き出すような保育の工夫を行うように気をつけています。乳児部では赤ちゃんの部屋でも環境構成や手作りおもちゃなど「したい」という気持ちを生み出す工夫をしてきました。散歩一つとっても、子ども達の興味関心に寄り添いながら声をかけ、見てきたもの、感じたものを歌や制作で表現活動も行っています。また年間の野菜作りなどを通して畑に関心を寄せるような声かけや保育も計画してきました。幼児部では教育活動における導入を重んじ、子どもの心を乗せるということを大切にしています。特に忍者活動では普段の生活の中に取り入れ、また時には幼児部全員に大がかりな導入を仕掛けていくことで盛り上げていくことに取り組みました。またペア活動においても「優しい心」「慕う心」を育む活動を行ってきました。年長においては「いのちの活動」を通して、本物の魚に親しみを持ち、それをさばいて食べるまでみんなで考え、悩みながらの活動に取り組むことができました。重ねて「アイドル活動」も子どもの発案から、自分達で曲や振付、衣装を決めてコンサートを開催するなど自主的な活動も取り組むことができたことはとても有意義でした。

（5）地域と協力した保育ができたか

子ども達は園の中だけではなく、地域によって育まれていくという意識をもって保育をしていくことの大切さを特に近年感じます。乳児部では散歩で外に出ることが多いので、その行先で声をかけてもらい、子ども達は肌で地域の方々に大切にしてもらっているという感覚を得ているのではな

いかと思います。幼児部でも地域の方に田んぼを借りて、どろんこ遊びや田植えなどを行い、忍者活動では波佐見町内に出かけていき、様々な人に協力してもらっています。またコロナのときにはできなかったデイサービスのお年寄りとの交流ができたことは子どもたちにとっても良かったと思います。

（6）職員間で協力して保育ができたか

いい保育というのはみんなで協力してできるものです。なぜなら一人では気づかないことでも複数の先生が関わることによって見える視野が広くなっていくからです。お互い、気づきあい、話し合いということが最も大切になってきます。また一部の先生に過度な負担になっていないか、みんなで声を掛け合うことも大切にしています。

（7）保護者と協力した保育ができたか

子どもたちの成長は大きく分けると園、保護者、地域のこの３つが関わってきます。中でも保護者の理解と協力なしには子どもたちの保育は成り立たないと考えています。園行事一つにしても保護者の方との思いの共有や協力なしにはいい行事にすることは難しいです。また園全体に関わることや保育教諭に対してのご意見等もより良い保育をするための貴重な意見として当園は考えています。園から保護者へのお願い、また保護者から園への要望。どちらも子どものためを思ってのものであります。この立場にお互い立つことがとても大切なことである。園としても保護者の言葉に真摯に耳に傾け、子ども達のために保護者と協力した保育に取り組んでいきたいと思います。

（8）子どもの心に寄り添った保育を心がけられたか

子どもにとって自分の心に寄り添われるということは、自尊心が育っていく大きな関わりの一つです。いつも自分の言葉のかけ方、接し方が子どもにとって心地いいもの、意味のあるものになっているかと自己反省をすることが大切なことであり、職員にもそのことは伝えています
ただ保護者の方からのご意見をいただくこともあるので、その時は園長、副園長または主幹保育教諭より伝えるようにしています。完璧な人間を目指すのではなく、自分を振り返ることができる人になっていくことが、寄り添った保育につながっていくのではないかと思っています。

（9）子どもの健康状態を毎日きちんと把握していたか

子ども達が登園してきたときに、保護者の方に体調の様子を聞きます。そのことを念頭に置きながら一日の様子を見ていきます。そしてさらに大切なことは「視診」と言って、職員が子どもたちの様子を把握するということである。「朝の表情はどうか」「元気はあるか」「機嫌はどうか」「検温表の発熱はどうか」「食事の量はどうか」「せきや鼻水はあるか」「排泄の状況」「お昼寝の様子」「おやつの食べる様子」等、一日の中で何度も体調の変化をチェックしているところです。またお休みの園児についてもアプリによる連絡内容を職員が把握をして、他のクラスの子どもの状態も知るようにしています。

（10）子どもの保健衛生の維持に努めていたか

保育というのは集団生活でもあります。ご家庭にいるよりも風邪にかかるリスクも高くなります。子ども達は様々なウィルスや菌の中で生活することによって、風邪をひきながらも生きていくための耐性を獲得していきます。しかしながら園ではなるべく風邪が流行らないように様々な対策をしています。乳児の部屋ではおもちゃを口にいれたりするので、毎日の消毒がかかせません。汗をか

くことも大切なので温度を見ながら、エアコンを利用しているところです。肌の状況などもこまめに保護者の方にも連絡をして通院を勧めています。幼児ではマスク着用や自分で汗をふくこと、水分をとることも覚えていきます。感染症の流行も連絡アプリを利用してお知らせをしているところです。しかしながら感染症の連絡等をもっとわかりやすく密にできたのではないかという反省も持ちましたので来年度は更に充実していきたいと思います。

（11）食育を意識した保育を提供できたか

毎日のお給食の中では野菜がたくさん入っております。子ども達も普段食べない物もあるようで、食べ終わるのに苦労する場合があります。園では少しでも口に入れるものに関心を持ってほしいとあえて子ども達が苦手なもの（トマト、ピーマン、きゅうり、なすびなど）を育てるようにしています。土をさわり、苗を植え、毎日の水やりや声掛けなど愛着をもって育てる姿はとても微笑ましいです。苦労して育てた野菜はご家庭で出てくる野菜と同じものでも子ども達にとっては意味が違うようです。ただ目の前に出てくるということではなく、どのようにして手をかけ、育てられたのか。それによって「愛でる」という感情が育ち、大切に「いただく」という心が大きくなっていくようです。これからも幼児部、乳児部ともに毎年野菜を育てていきたいと思います。

（12）楽しく給食をいただくような配慮ができたか

給食は楽しくいただくということが大切なことです。給食が楽しくないという子どもは食べ物の好き嫌いが大きく関係しています。そのときはなるべく量を減らしたり、言葉をかけたりしながら食べ終えることができたという自信をつけていくことが大切になります。乳児部では起床時間の関係で給食時眠くなる園児もいます。そのときは、給食の前に少し寝る時間をとることもあります。また給食時、廊下を散歩するなど気分転換をしてから食べさせるということもしています。幼児部では子ども達に食べられる量を相談しながら調整をして、「食べられた！」という喜びを大事にしています。

また毎月給食検討会という会議を行い、各クラスでの給食の様子はどうだったか。「味」「形状」「食べ込み方」「メニューの変更」「アレルギーのお子さんのメニュー」等々、子ども達がより楽しく給食をいただくようにいろいろな方面からサポートしています。

（13）子ども達に丁寧な言葉遣いで接していたか

園生活での子ども達の最も大切な環境は先生です。言葉遣い一つで子ども達を傷つけることもあれば、喜び合えることもあります。職員も人間なので、仕事が多くなってきたときには平静な気持ちで子どもに接することが難しくなってきます。園としては一人の人の負担が大きくならないようにサポートするとともに、保育の躓きに対してのアドバイス等も主幹保育教諭を中心に行っているところです。また保護者の方から、お子様への対応へのご意見をいただくこともあります。そのときには当該職員とも話し合いをしながら子ども達にとってより良い環境になるように心がけていきます。重ねて全体職員会議のときにも「不適切な保育とは？」ということを共有して学びを深めているところです。

（14）保護者の気持ちを汲み取った言葉かけができたか

子育てというのは思い通りにならないことが多いものです。まして仕事もしながら子育てもしていくということは、大変なストレスを抱えながら毎日過ごされているのではないでしょうか。

少しでも保護者の方の気持ちに寄り添えるように職員一同努力しているところであります。時に保護者のお気持ちに沿うことができずに不快な思いをさせることもあったようです。その時には遠慮なくお申し出いただければと思います。保護者の方の一言、一言が園にとっても学びになります。

（15）施設内外での設備の安全に気を配っているか

子どもたちが毎日過ごす場所が園ですので消防点検並びに遊具等の安全点検も毎年受けております。その他、設備等で気がかりなことがあれば、専門の業者の方に見ていただいております。保護者の方からもご意見をいただくこともあり、その都度緊急性が高い順番に予算の都合をつけながら改善をしておるところです。

（16）不審者等の安全に気を配っているか

不審者等に安全に気を配らなければならない世の中に生きていることを本当に悲しく思います。少しでも安心安全に過ごせるように、地域の方々との関係も深めていきたいと思っております。当園では不審者訓練を年２回行い、様々なケースを想定しながら形だけの訓練にならないように考慮しております。ただ不審者訓練とは地域の人に対しての信頼、または園を解放するということと相反することでもあります。なるべく閉ざされた園にならないように配慮しながら、各部屋には防犯ブザーや内鍵をつけていざというときに備えています。また来年度は更に警察直通の１１０番ブザーも取り付ける予定です。

（17）保護者に子どもの健康状況、ケガの状況において適切に報告していたか

基本的に園でお子さんとお預かりをした状態のまま帰るまで保育をするということを毎日気にかけています。子どもの健康状況も保護者や医療機関の情報、視診を通して把握をするように努め、特に小さいお子さんは体調が無理のないように保育を計画を常に見直しをしています。
しかしながら思いがけず防ぐことができないケガをすることがあります。そのときにはまず状態を見て、応急手当てをします。そして通院の必要があるかどうかを園長、副園長または主幹教諭と担任、看護師で判断します。通院の必要がない場合でも保護者のお迎えのときに怪我の状況、程度をお伝えするようにしております。通院の必要がある場合には園の職員が病院に連れていきます。そのときには、保護者の方にも怪我の状況と通院することをお伝えしているところです。

（18）園児・保護者の個人情報並びに公文書を適正に管理していたか

園にはお子様や保護者の方の個人情報、公文書があります。職員にはＵＳＢを支給し、その中に個人情報を入れている場合もあります。そのＵＳＢにはロックがかかっていて、職員本人しか開けないようにしています。そして管理者によって定期的にＵＳＢの情報の内容と削除しているかどうかのチェックをしております。また公文書は園の金庫に保管をして誰もが自由に見ることができなくしております。

（19）子どもが１年間楽しく過ごすことができたか

子どもが１年間充実した生活をおくることができたかどうかということは何よりも大切なことだと思います。毎日の園生活の中では、ケンカをすることもあります。苦手なお給食もあります。気分が乗らないときもあります。またお着替え、排泄、ピアニカ、太鼓、踊りなど覚えるのに時間がかかるものもあります。思い通りにいかないこともあるのが集団生活であります。しか

し大切なのはそのすべてに職員や保護者が寄り添い、励ましてくれることです。そのことを通して自分を支えてくれる人の存在を感じていきます。その全体を通して、1 年間楽しかったと言えるような保育を職員一同、力を尽くしています。その時々で保護者の方にご指摘をいただくこともありました。そのご意見を学びとして、よりよい教育・保育をしていくのが当園の使命だと思っております。